

2023年度全国労働組合生産性中央討論集会

開会挨拶

全労生議長 松浦昭彦

「人への投資」という言葉が最近よく使われるようになりました。いろいろな意味を含んでいるということであろうと思います。賃金を上げることが「人への投資」だ、という部分もあり、仕事のスキルや能力を上げていく、ということが、企業にとっての「人への投資」だということもあり、両方の見方があるのだらうと思います。

UAゼンセンや連合の立場で、経営者の皆さんとお話をする機会もあるわけですが、やはり昨今の賃上げを続けていく、ということが大変重要な日本全体のテーマとなっています。いつも経営者の皆さんに申し上げるのは、私達は今までと同じ仕事を同じようにして賃金を上げてくださいと言っているわけではない、ということです。どのように企業の生産性を向上させるのか、しっかりと経営側にも考えていただいて、労使でしっかり話し込んで、その上で賃金が上がっていく。そのことが循環をしていくということが必要だということを申し上げています。人口減少社会の中で、いろんな業種で今、人手不足といわれています。であるならば、その人手で事業を回していきける新しい業務システムなり、事業の回し方ということ、やはり考えていかなければいけない。そのことは、すなわち働く皆さんの処遇の改善に直結しなければいけないと思っております。

今、多くの企業あるいは産業で、この「人への投資」の方策が打ち出されていたり、検討されていたりということがあろうかと思えます。ぜひ今日は、産業横断的に分散会の中で、あの産業はこんなこともやっている、では自分たちの産業でも、こんなことができるのではないか、というようなことがあればと思います。あるいは労使関係においても、これは個別の労使関係もあれば業界団体との関係もありますが、政策的に我々が求めていかなければいけないことも出てくるのだらうと思います。このように議論を深めていくことで、経済と人の生活が両立できる形を作っていく、そういうことが、実は少子化対策にも効いてくるのではないかと。そして、国際的な日本の立ち位置というものも向上させるということに繋がっているのではないかと私は思っております。

以上申し上げました通り、非常に広範な視点もございますけれど、何より、今日、お集まりの皆さんが本当に忌憚なく情報交換をして、何かのヒントを得て帰っていただくことが大変重要だと思っております。

最後まで皆さんのご参加、ご協力をお願い申し上げます